一般財団法人 岩手陸上競技協会

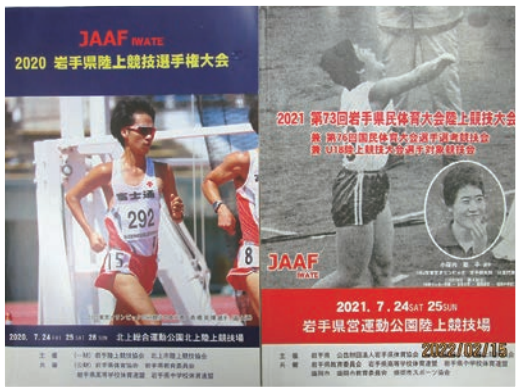
「一般財団法人 岩手陸上競技協会の取り組み」

当協会は、昭和４年（1929）創立で今年93周年を迎え、毎年約600名の公認審判員をはじめ、中学生から一般まで約5000名の登録選手を抱えているとともに加盟団体である22の市町陸上競技協会とタイアップしながら陸上競技の振興・普及・強化と数多くの競技大会の企画・運営等を主たる活動に取り組んでいます。その目的を達成するために４つの委員会組織（総務、競技運営、施設用器具、強化普及）を設置しています。2021年からは日本陸上競技連盟理事、今後４年間の東北陸上競技協会事務局としての活動も加わり、関係機関と連携を取りながら事業を展開しています。

コロナ禍での主催事業

この２年間は、数多くの大会が中止、あるいは参加制限が加わったり、無観客の大会開催など感染症対策を講じた運営が求められるなど初めての対応に戸惑うことが多かったですが感染者を出すこともなく無事に大会を終えたことが何よりでした。

2021年は、感染症拡大により、東北総体、国体、都道府県対抗男子駅伝が県代表選手を決定後に中止となり、せっかく代表を勝ち得た選手にはとても気の毒な思いをさせてしまいました。しかし、1年延期された東京オリンピックには競歩日本代表として高橋英輝選手、日本代表スタッフ１名、競技役員４名を派遣することができました。また、一般、高校、中学校、小学校と各カテゴリーの全国大会で日本一が誕生するなどの大活躍もありました。今後も強化部を中心に各年代の指導者の連携を深めながら競技力向上に努めたいと思っています。

今後の取り組み

本県の審判員は２度のインターハイ、国体を経験している方が多く大会運営のノウハウにも長け、県外の選手役員から高評価を受けていることから次なる全国大会を誘致して開催することが競技人口の増加・普及、選手強化、競技力向上、各地域陸協の活性化につながるものと考えています。また、県内の各競技場の施設設備の充実を図りながら競技会が開催できるように関係機関との連携を強めていきたいと思っています。まずは、感染症が終息し、再び多くの観客の歓声の中で競技会が開かれることを願っているところです。